

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：別所沼を守る会

代表者：会長 吉村 文則

URL：

1. 活動が必要とされた状況

別所沼公園開園以来87年振りのカイボリ工事が始められたが、水抜き後に地盤沈下、護岸のゆるみ等の不測の事態が発生。市側の緊急判断から10日ほどで注水がはじまった。この水の無い期間に沼底に堆積した沼の汚れの主因である「古落ち葉および沼ドロ」を掻き揚げるべく活動を始めた。注水が始まるわずかな期間に有効かつ迅速な方法をゆっくり考える暇もなく今すぐに出来る方法を駆使して実行せざるを得なかった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

このカイボリ工事全体は3月に始まって水入れ完了まで3か月強。泥および古落ち葉の回収は5月10日から20日の10日間参加人数は1日平均4.5人（計45人）作業時間は日平均5時間稼働しました。

方法としては①ポンプの作動で水はけをよくして、②足場を渡して人の動きを自在に保ち、③使える道具と機器をすべて活用して効率よく進めた。

作業の総ては機械に頼ることが出来ないのですべてを手仕事で進めた。よって腰を痛めることしばしばで休憩の取り方、声の掛け合いが安全を保つ最良の方法と体感、終了まで大過なくすすめられた。



3. 活動の成果

その集計は掻きいれた毎日の網籠（一杯20キロ）の数を確認して積算したところ18トンに及んだ。その量と重さをリヤカーで緑地協会所定の残土置き場に運んで埋め覆土してクローバーの種をまいて整地した。蛇足ながらクローバーは目をだして順調にそだちつつあります。沼底に沈んだ落ち葉と長年の堆積ヘドロも活用できることが解った。



4. 今後に残された課題

以後水が入ってからでも水上より同じ作業を続けています。冬に落葉（45Lごみ袋で2,500袋）する限り、落ち葉を改修すると同時に掻き揚げ作業を続けてゆくことが別所沼を守る最大で最良の唯一の方法とこのカイボリ工事に対処した我々の自信を持って言える結論で、課題克服にはひたすらコツコツと沼掃除を続けるのみです。